

「BELIEVE」

BELIEVE

2020
冬号
VOL.71

」

特集 退院支援をご存じですか?



「たんぽぽみたいなそんな花」 カミジョウ ミカ (エイブルアート・カンパニー所属 <http://www.ableartcom.jp>)

シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔⑦ 脳神経外科主任部長 橋本 憲司

- 食だより／餅キムチチヂミ ●お薬ミニ知識／細菌にお薬が効かなくなる?
- 『がんサポートチーム』からのお知らせ ●かかりつけ医、をもちましょう
- がん患者さんの仕事、に関することは、当院の『がん相談支援センター』にご相談ください。 ●キャロリング

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

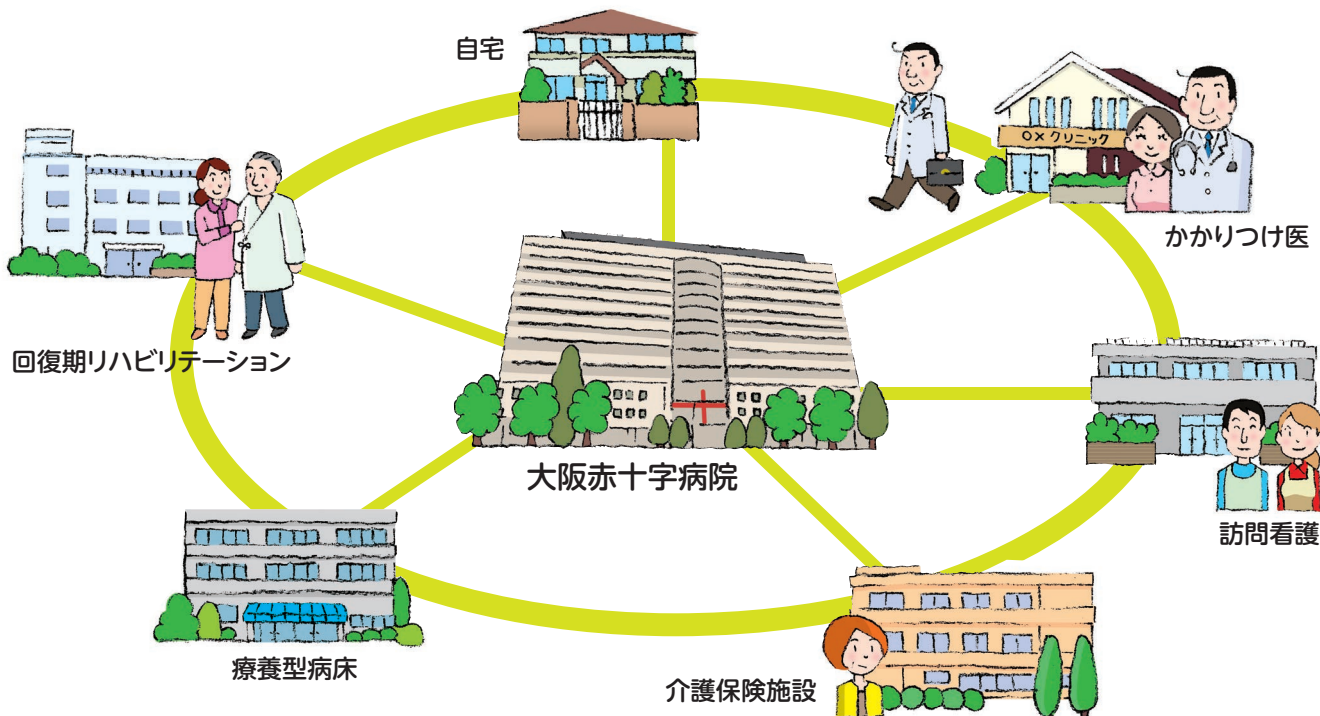
1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



退院支援

をどう存じますか？

現在の医療は、「高度急性期病院」「回復期リハビリテーション病院(病床)」「慢性型病院(病床)」「地域の診療所(かかりつけ医)」「介護施設」などが連携し、それぞれの施設の機能に応じた役割分担を行っています。



私たちが
退院支援担当者です。

そこで、当院の『入退院支援課』では、退院支援担当者として、社会福祉士、または看護師を各病棟に配置しています。

当院では退院支援を行っています。

そのなかで当院は、「高度急性期病院」として救急・専門性の高い医療の提供を担っているため、その期間の治療が終わり、病状が落ち着くと、退院・転院していただくこととなります。

本来、自宅への退院が望ましいのですが、病状によっては他の病院や施設への転院が必要となる場合があります。この場合、療養やリハビリなどが目的に合った場所を適切に選択することが大切です。

また、自宅での療養生活に不安があるときは、かかりつけ医、訪問看護師、ケアマネジャーなどと連携し、在宅での生活を支える社会資源を活用しながら、住み慣れた地域で生活していただけるように、

今回は当院の『退院支援』について、
また『かかりつけ医の役割』について紹介します。

当院の『退院支援』の流れについて

入院前から退院後の生活を視野に入れ、不安なく療養していただけるように、患者さんやご家族の方と一緒に、退院後の生活を考え、療養環境の調整を行っています。

『退院支援』は、次の流れに沿って進めています。

外来・入院前サポートセンター

外来・入院前サポートセンターでは

- 入院前に利用されているサービスの利用状況を伺います。
- 入院生活に関するオリエンテーションを行います。
- 退院後の療養場所について説明します。

(例) 整形外科の膝や股関節の人工関節置換術を受けられる患者さんは手術後しばらくリハビリが必要となります。リハビリを目的に他の病院に転院していただくことがありますので、**外来でリハビリ病院への転院について説明しています。**

入院されてからは

- 退院支援担当者が、入院早期より退院支援が必要な患者さんとご家族に、「どこで、どのように過ごしたいか」という療養生活に対する思いを伺います。
- 患者さんの退院後の生活をイメージしていただきながら、「自宅か転院かなど、療養の場を決めていきます。
- 医師・病棟看護師・社会福祉士・薬剤師・リハビリスタッフなどの多職種と連携をとり、患者さんの必要なケアや介入方法、課題などを考えます。

転院先や利用できる施設が分からない



転院・在宅

転院される場合

- 転院の場合は、療養目的と患者さんご家族の方の思いを確認しながら、できる限りご希望に添った調整を行います。

自宅退院の場合

- かかりつけ医や地域の看護師、ケアマネジャーなどの在宅チームに繋いでいきます。場合により退院前合同カンファレンスを行います。

～退院前合同カンファレンスを行っています～



退院後の療養生活については、かかりつけ医や訪問看護師、ケアマネジャーなど地域のさまざまな関係機関との調整が必要な場合があります。そんなときは、退院前合同カンファレンスを開催しています。カンファレンスには、患者さんご家族、医師、病棟看護師、退院支援担当者などの院内スタッフとかかりつけ医、訪問看護師、ケアマネジャー、サービス提供事業者、保健師など地域の関係機関が参加し、医療の内容や生活するにあたっての必要事項、退院後のサービスの内容について、情報共有します。入院医療から在宅医療へ引き継ぐことにより、患者さんご家族の方が安心して療養生活を送っていただけるよう支援します。

退院後の生活について不安な点がありましたら、病棟の看護師・退院支援担当者にお気軽に相談ください。



信頼できる「病院」と「かかりつけ医」をもちましよう

急速な高齢化を背景に、日本の医療体制は大きく変化し、これまでの「病院完結型医療」から「地域完結型医療」（身近な地域のなかで、病院やかかりつけ医が役割を分担して連携することで、患者さんに切れ目のない医療を提供する。）へ移行してきています。このような流れのなか、当院は地域の中核病院として、急性期医療、高度専門医療、救急医療の提供を行い、さらに「かかりつけ医」と相互に協力・連携し、医療の役割分担を図っていきます。

1「かかりつけ医」とは

身近な地域のなかで、患者さんの日頃の診察を行うお医者さんです。海外では「家庭医」と呼ばれることもあり、身近にいて、どんな病気もはじめに相談し、検査、入院、専門治療が必要になれば、適切に病院へ引き継いで紹介してくれれます。

2「かかりつけ医」をもつメリット

- (1) どのような病気でも気軽に相談できる
- (2) 比較的短い待ち時間で診察してくれる
- (3) 早期発見、早期治療が可能となる
- (4) 必要なときは専門医(病院)を紹介してくれる

3「かかりつけ医」の選び方のポイント

- (1) 病気のことを分かりやすく説明してくれる
- (2) 話しやすい、よく話を聞いてくれる
- (3) 家から近い・交通の便が良い

4 当院へは、「かかりつけ医」からの紹介で受診してください

- (1) 初診でも診察の事前予約ができます
(かかりつけ医から)予約が取れます
- (2) これまでの治療経過が分かり、速やかに適切な治療や検査を受けることができます。
- (3) 紹介状がない場合、初診時に選定療養費5,000円(税別)をご負担いただくことがあります。



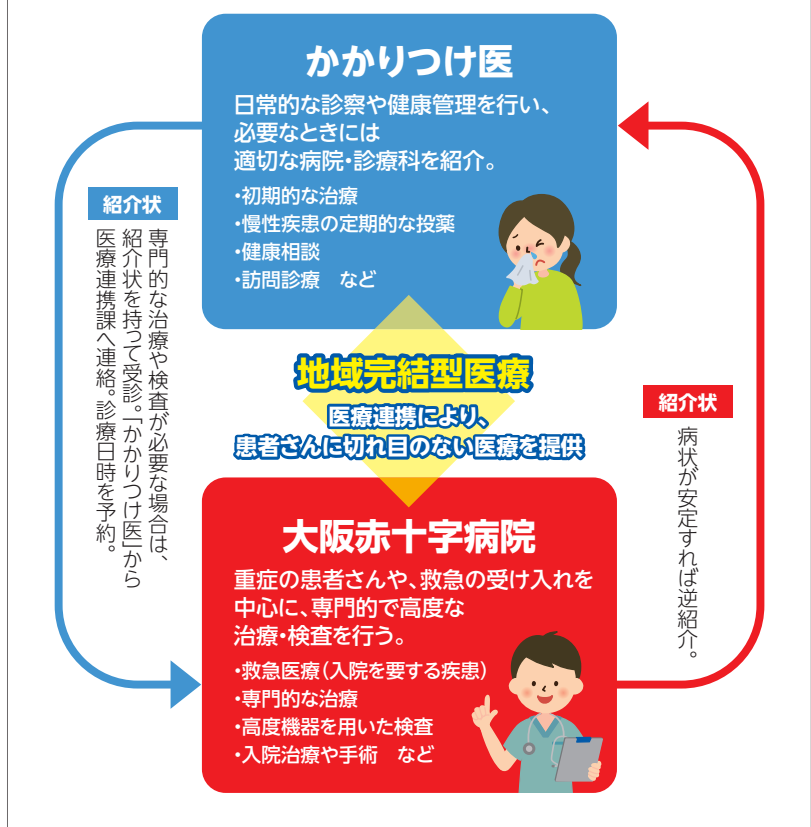
当院2階総合受付の「かかりつけ医紹介窓口」

でかかりつけ医をお探ししています。患者さんやご家族のご希望に沿った情報(場所・診療時間・診療科など)を提供しています。お気軽にお尋ねください。

6「かかりつけ医」をおもちでない方へ

- (1) 当院から「かかりつけ医」へご紹介後、「かかりつけ医」から紹介状なしで当院を受診されますと、再診時に選定療養費2,500円(税別)をご負担いただくことがあります。
- (2) 当院から「かかりつけ医」へご紹介後、「かかりつけ医」から紹介状なしで当院を受診されますと、再診時に選定療養費2,500円(税別)をご負担いただくことがあります。

医療連携のイメージ



「この仕事を選んでよかった」 元気になって帰られる患者さんを見るたびに、そう思う。

脳神経外科主任部長 橋本 憲司

すべては患者さんのために、
次世代を担う若い人の
レベルアップを図りたい。

緊急で運ばれてくる患者さんが多く、体力的にも厳しい環境下に置かれる脳神経外科医。だが、そのような状況でも橋本医師は「元気になった患者さんを見るとうれしい。それがすべて。」という。

橋本医師の毎日は、丸一日手術の日もあれば、カンファレンス、外来診療、半日手術、そして管理業務と、常に予定が埋まっている。休日も学会などへの参加で、息をつく暇もない。そんな多忙な日々を送る一方で、若手の人材育成にも熱心だ。「昔は『自分がいかに技術をつけるか』が主軸でしたが、今は、若い



人に多くを学んでほしいと思っています。技術の伝承も惜しみません。先人が10年かかったことを、次世代の人は3年で習得し、次のステップへ進んでほしい。そう思っています。」時には、若手のためにセミナーを主催することもあるという。

そんな橋本医師から感じられる「親身さ」の起源は、橋本医師が『精神科医』として、医師人生をスタートさせたことにさかのぼる。最終的には、自身の得意分野を活かすことができる現在の脳神経外科医に転科したが、精神科医時代に培われた、患者さんや周りのスタッフに寄り添う姿勢が今も橋本医師の人となりを成しているであろう。

治療技術だけでなく、
システム自体の改善で
患者さんの予後をさらに良く。

脳神経外科は治療法の進歩が著しい分野だという。脳梗塞で血管が詰まった際、従来は薬でしか処置できなかった患者さんに対し、近年では血栓（血管に詰まった血液の塊）の回収が可能になったそうだ。「さまざまな治療法が確立され、より多くの患者さんを助けることができる。現役のあいだにそのような場面に臨む



2匹とも元捨て犬ですが、今はわが家のアイドルです。つい餌を与えすぎて妻に怒られています。

ことができ、喜ばしいですね。」そう橋本医師は穏やかな表情で語った。

そして、今後の目標について「脳血栓回収療法に関しては技術的には確立されているので、あとは『いかに時間を短縮できるか』が重要。救急科とも連携し、各プロセスの所要時間や、システム自体の見直しにも取り組んでいます。」と話してくれた。また、「すぐにはどうにかできる問題ではないですが」と前提した上で「地方には医療過疎地がまだまだあります。最先端の地域の医療だけが先鋭されているのではなく、その周りも比例して医療技術が向上し、日本全体の幸福につながるようになれば、と思っています。」と結んだ。

医療業務、若手育成、システム改善など、さまざまな分野に尽力する橋本医師。そのようななかでも、「医師とは幸せな仕事だ」と表現したのが印象的であった。橋本医師の今後の活躍と、橋本医師のもとで学んだ次世代の医師たちが切り開く、脳神経外科の未来が今から待ち遠しい。

大阪府生まれ。奈良県立医科大学卒業後、京都大学医学部附属病院の精神科で研修、後に脳神経外科へ転科。京都大学大学院、大阪府済生会野江病院を経て、アメリカのテネシー州立大学に留学。平成16年から当院にて約6年半勤務。その後、浜松労災病院、市立岸和田市民病院（救急センター長を兼務）などを経て、平成31年4月再び当院に脳神経外科主任部長として着任した。

看護師レポート 71 ARISA HATAKEYAMA

奈良県生まれ。平成19年大阪赤十字看護専門学校卒業後、当院に就職。主に肺がん患者の看護経験の後、平成24年に脳卒中患者の看護を行う現在の病棟へ配属。患者本人だけでなく、その家族のフォローまで意識した看護を行っている。



●看護師 畠山 愛里沙

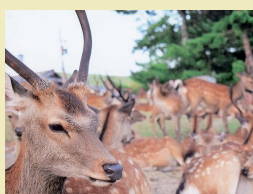
「看護師になりたい。」物心がついたときからそう思っていました。母が看護師だったので、その影響かもしれません。他の職種と迷うことなく、当院へ入職しました。

患者さんの“変化”を見逃さない。 意思疎通が難しいからこそ、常に最適な看護を。

入職後、最初の配属は、肺がんなどの患者さんのケアを行う病棟でした。慣れるまでは体力的にも「しんどいな」と感じる日が多かったですね。それでも、この道に進んだことを後悔したことは一度もありません。

現在は、主に急性期の脳卒中中の患者さんの看護を行っています。以前の病棟とは異なり、自分では意思疎通ができない方が多いので、バイタルサイン（体温・血圧・脈拍など）や患者さんの表情などから常に予測して、適切なケアができるよう気を配っています。「急変」といわれるようなものも、何かしらの予兆があるので、見逃さないように細心の注意を払っていますね。また、ご家族の方はやはり、戸惑いや不安を抱えていると思うので、そのような方も含めて、患者さんだけでなく、周りの方々のフォローも大切に考えて、取り組んでいます。忙しい毎日ですが、ご飯を食べられなかった患者さんが食べられるようになったり、話すことができなかった患者さんが話せるようになったりと、うれしさや、やりがいを感じる場面はたくさんあります。

休日はお気に入りの公園に出かけたりして、リフレッシュしています。通勤に片道1時間ほどかかるので、その間に自然と「ON」、「OFF」が切り替わっているのかもしれない。



奈良公園での一枚。

看護師になって、もう10年以上経ちましたが、思い返してみれば本当にあつという間でした。目の前の患者さんの看護を大切にしていきたい、という思いは、当初から変わりがありません。今後もし必要ならケアを、患者さんにもご家族の方にもできるよう、心がけていきたいですね。



食だより

● ● ● 栄養管理課 管理栄養士 福井侑子

餅キムチチヂミ

寒くなってきましたね。辛い物を食べて体を温める方も多いのではないのでしょうか。私はお鍋が好きなので、この季節はキムチ鍋をよく食べます。今回は、最近注目されているキムチの栄養効果と、キムチとお餅を使った『餅キムチチヂミ』を紹介いたします。冷蔵庫にある白菜キムチとお正月後の余ったお餅でぜひお試しください。

キムチに含まれている乳酸菌は、腸内の善玉菌を増やし腸内環境を整える効果があり、大腸がんの予防が期待できるそうです。また、免疫力を左右する腸の調子がよくならないことで、免疫力を保つ効果も期待できます。

乳酸菌は大きく分けて、植物性乳酸菌と動物性乳酸菌があります。キムチに含まれる乳酸菌は、植物性乳酸菌です。植物性乳酸菌は、動物性乳酸菌よりも、生きたまま腸に届きやすいというメリットがあります。ヨーグルトなどに含まれる動物性乳酸菌は、酸に弱く、胃酸や胆汁によりほとんどが死滅する可能性が高いのに対し、キムチなどに含まれる植物性乳酸菌は、酸に強く、生きたまま腸まで届きやすいのが特長です。また、キムチはビタミンB群や食物繊維も豊富です。ビタミンB群は、糖質や脂質の代謝を促す効果があり、食物繊維は整腸作用があることが広く知られています。このようにキムチは栄養価が高い食品ですが塩分が多く含まれていますので、食べる頻度や量には気をつけるようにしましょう。



〈材料〉(2人分)

豚こま肉	100g
玉ねぎ	50g
ニラ	30g
切り餅	1個
白菜キムチ	50g
青ねぎ	10g
【生地】	
水	100ml
薄力粉	100g
卵	1個
鶏ガラスープの素	小さじ2
ごま油	大さじ1

作り方

- 1 豚こま肉は大きければ一口大に切る。玉ねぎは薄切りに、ニラは根元を切り落とし3cm幅に切る。切り餅は薄切りにする。
- 2 ボウルで生地の材料を混ぜ、①とキムチを加えてさらに混ぜ合わせる。
- 3 フライパンを強火に熱し、ごま油をひいてキッチンペーパーで伸ばし、②を流し入れて焼く。
- 4 焼き色が付いたら裏返し、押さえつけながら片側にも焼き色が付くまで中火で焼き、豚こま肉に火が通ったら火から下ろす。
- 5 食べやすい大きさに切って、お皿に盛り、青ねぎを散らして完成です。

★お好みで、醤油と酢を1:1で作ったタレを付けて食べてもおいしいです。また、豚こま肉ではなく、えびやいかなどを入れてもいいですね。



お薬ニ知識

薬剤部 薬剤師 本城 綾子



細菌にお薬が効かなくなる？

細菌感染症の治療には抗菌薬(抗生剤・抗生物質)が用いられます。細菌を殺したり、増殖するのを抑えたりすることで、効果を示します。しかし、近年、抗菌薬が効かない菌、つまり薬剤耐性菌が世界的に増えてきています。細菌が抗菌薬から逃れるシステムを獲得してしまうのです。薬剤耐性菌が原因となつて起こった感染症は、従来の抗菌薬が効きづらく、治療が困難となる場合があります。

それでは薬剤耐性菌を広げないために身近にできることは何でしょうか？ 薬剤耐性菌は、抗菌薬が使われることで、耐性を持たない菌が減少した結果、増殖しやすくなります。よって、抗菌薬を無駄なく正しく使うために次のことがポイントとなります。

1 ウイルスが原因である風邪に対して、抗菌薬の処方希望しない

風邪の原因の約9割はウイルスであり細菌ではありません。細菌性のもや肺炎などが疑われて抗菌薬が処方された場合を除き、不必要に抗菌薬を欲することは薬剤耐性菌の原因となる抗菌薬使用の機会を増やしてしまつこととなります。

2 処方された抗菌薬を医師の指示通り服用する

服用回数については、抗菌薬の種類により異なります。また、服用量は患者さん個人の年齢や体格、腎臓や肝臓の機能を考慮して決められています。本来服用すべきお薬の量を守らず減量すると、血液中のお薬の量が少なくなり、生き残る耐性菌を増やしてしまつこととなります。逆に過量に服用すると、副作用が現れる恐れがあります。

服用期間については、感染症を治療するのに必要な日数を考慮して処方されます。症状がよくなったからといって自己判断で止めてしまつと再発して治療が長引くこともあります。こうした理由のほか、感染症により原因菌が異なるため、抗菌薬をどうして別の機会に服用したり他人にあげたりしてはいけません。

3 手洗い・咳エチケット・ワクチン接種

予防できる感染症は予防して、抗菌薬使用の機会をできる限り少なくしましょう。



がんと向き合うために「がん看護相談」をご利用ください

がん性疼痛看護認定看護師 津本 友美

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。
TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp



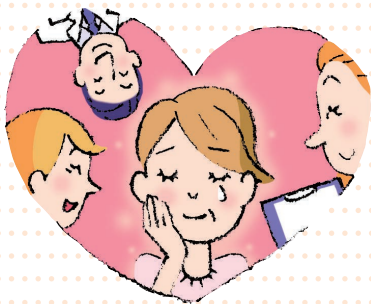
看護相談を活性化し、活用していただき。不安を吐き出すことで、落ち込んでいた気持ちが少し軽くなったり、話すうちに問題が整理できたりすることもあります。

診断後はさまざまな検査の結果をもとに、どのような治療を行うかを決めますが、その際、病状や治療、療養生活など、もっと詳しく知りたいと思ったことを自分で調べてみることも、不安を軽減する方法のひとつです。情報を得ることが、漠然とした不安の軽減につながる場合や、納得して意思決定するための判断材料になる場合があります。

がんと告げられることは衝撃的な出来事であり、心に大きなストレスをもたらします。告知後の数日間は「まさか自分か：」「何かの間違った」などと認めたくない気持ちを抱く人がほとんどです。また、「なぜ、自分だけがこんな目に遭うのか」「食生活のせいではないか」「仕事のストレスではないか」と自分を責める人もいます。しかし、多くのがんと向き合っている人は、解明されていないのが現状です。

さらに、しばらくは不安や落ち込みで眠れなかったり、食欲がなかったり、集中力が低下したりする人もいます。心配をかけるたくないため、「つらい」「悔しい」といった気持ちを話すことをためらう人もいます。そんなときは家族や親しい友人など、がん気持ちや不安を話したり、がん看護相談を活用していただき。不安を吐き出すことで、落ち込んでいた気持ちが少し軽くなったり、話すうちに問題が整理できたりすることもあります。

最近ではインターネットで多くの情報が入手でき、テレビや書籍でもがんの情報が得られます。しかしながら、病状や状況によって、適している治療や必要な情報は異なります。情報の信頼性が大切なのは言うまでもありませんが、その情報が自分に当てはまるかどうかは、担当医や外来・病棟にいる看護師、薬剤師に確認して判断することが大切です。また、情報探しの第一歩としてインターネットでの「がん情報サービス(ganinfo.jp)」の検索や、がん看護相談を利用することも、自分らしくがんに向き合うための方法として、試してみてください。



がん相談支援センター

がん相談窓口

本館2階 総合サービスカウンター

- ◆電話/06-6774-5152(直通)
- ◆メール/syakaika@osaka-med.jrc.or.jp
- ◆日時/月～金曜 8:30～17:00

まずは、医療ソーシャルワーカーが疑問や悩みごとなど相談内容をお伺いします。内容により、専門看護師や認定看護師が対応する「がん看護相談」のご予約をお取りいたします。

がん相談支援センター

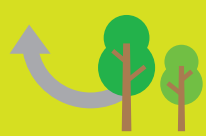
がん相談窓口

本館2階 総合サービスカウンター

- ◆電話/06-6774-5152(直通)
- ◆メール/syakaika@osaka-med.jrc.or.jp
- ◆日時/月～金曜 8:30～17:00

まずは、医療ソーシャルワーカーが疑問や悩みごとなど相談内容をお伺いします。内容により、専門看護師や認定看護師が対応する「がん看護相談」のご予約をお取りいたします。

登録医紹介



「かかりつけ医」をもちましょう

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる「かかりつけ医」をもちましょう。

かかりつけ医

日ごろの健康管理
専門的な治療が
必要なら当院へ紹介

紹介

逆紹介

大阪赤十字病院

高度医療・専門医療
症状が安定したら再び
「かかりつけ医」へ

大手眼科クリニック

- ◆院長/大手 昭俊
- ◆診療科/眼科
- ◆住所/大阪市天王寺区上本町6-2-22 山崎製煉ビル1F
- ◆電話/06-6761-2118
- ◆往診/有(休診日に実施)
- ◆診療時間

外来	月	火	水	木	金	土
午前(10:00~13:00)	○	○	○	△	○	○
午後(16:00~19:00)	○	○	○	△	○	△

※木曜、日曜、祝日は休診



大手院長

特長 当院では現在、白内障・緑内障・糖尿病網膜症などコンタクト処方も含め眼科一般診療を行っています。内科的治療を主として行い、手術などの外科的治療が必要になれば遅滞なく大阪赤十字病院を主として高次専門医療機関を紹介しています。

近鉄「大阪上本町駅」、大阪メトロ(地下鉄)谷町線・千日前線「谷町九丁目駅」から徒歩1~5分に所在し、アクセスも便利です。

地域の皆さまへ 町の小さな眼科クリニックですので、何事も遠慮なく気軽に相談してください。大阪赤十字病院と密接な連携に努め、地域医療に貢献していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

こう内科クリニック

- ◆院長/高 成勲
- ◆診療科/内科、消化器内科
- ◆住所/大阪市生野区勝山北2-17-17
- ◆電話/06-6715-7101
- ◆訪問診療/有
- ◆診療時間

外来	月	火	水	木	金	土
午前(9:00~12:00)	○	○	○	○	○	○
午後(16:30~19:30)	○	△	○	○	○	△

※日曜、祝日は休診



高院長とスタッフ

特長 地域のプライマリケア医として機能すべく日々の診療を行っています。内科全般の診療を行っていますが、外来診療だけでなく在宅支援診療所として訪問診療にも注力しています。自院での診療だけに固執せず、大阪赤十字病院などの基幹病院と連携を図りながら、病状に応じた適切な医療機関へ紹介させていただくことを心がけています。

地域の皆さまへ 生野区勝山通りにあるクリニックです。コインパーキングが隣接しており、お車での来院も可能です。誠実な診療に努めていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。



がん患者さんの「仕事」に関することは、 当院の「がん相談支援センター」に ご相談ください。

「がん相談支援センター」では専門の相談員を招いて対応にあたっています。

がん相談支援センター 認定がん専門相談員 岩村将大

当院の「がん相談支援センター」では、がんの治療や療養生活、仕事についてなど、さまざまな相談に対応しています。

昨年からは、がん患者さんの「仕事」について、より専門的に対応できるよう「産業保健総合支援センターの両立支援促進員」と「ハローワークの就職支援ナビゲーター」の各関係機関の方に、それぞれ月1回来院していただいています。

『両立支援促進員』には、治療と仕事の両立について相談することができ、仕事をどのように続けていくか、また、復職にあたってどのように会社と話をするかなどのアドバイスを受けることができます。がんを診断された直後は特にさまざまな不安が生じます。そんなときに仕事について相談すると、今後の見通しが立つかもしれません。

がんの治療をしながら働きたい方へ

大阪赤十字病院の「がん相談支援センター」にて、ご相談に応じます。

～こんな悩み・不安を相談することが出来ます～

- ・治療内容から働き続けられるかわからない。
- ・治療を受けながら働けることに不安がある。
- ・復職する際、同じように働けるか不安だ。
- ・働き続けるにあたって治療と仕事の両立支援について聞きたい。
- ・医師からの指導内容をどう会社に伝えてよいかわからない。
- ・就業上の留意点を会社に提出するための意見書を書いてほしい。
- ・上司、同僚の理解が得られるか不安だ。
- ・復職しようとしても、解雇されるのではないか不安だ。

- 勤務を続けることができるか等の相談
- 症状、治療状況に就業上の配慮を促すための連携対応
- 意見書等に配慮内容を記載してもらうための助言
- 治療と仕事が両立できる休暇制度等を会社側に提案
- その他治療中における健康不安についての相談
- 関係機関の紹介

大阪産業保健総合支援センターでは、両立支援促進員が在職中の方から治療状況に応じて働き続けるための支援を行っています。
がんを診断されてもすぐに会社を辞めることを決めず、相談してから判断するようにしてください。

予約制

大阪産業保健総合支援センターの両立支援促進員が
第2週 金曜日 13:00～16:00
がん相談支援センター
(大阪赤十字病院 本館2階)
にて皆さまの相談に応じます。

お問い合わせ
TEL:06-6774-5152(直通)
月～金曜 8:30～17:00

※相談日は変更になる場合があります。

大阪赤十字病院・大阪産業保健総合支援センター

～大阪赤十字病院に入院・通院されている皆さまへ～
がんの治療をしながら働きたい方へ
～ハローワーク大阪東による就職支援のご案内～

- ◆通院の必要はあるが、働きたい。
- ◆今の仕事を続けるべきか、次の仕事を探すべきか迷っている。
- ◆自分の病状、体力にあった仕事を見つけない。
- ◆治療と仕事の両立について相談したい。
- ◆プランクが長く、仕事に戻ることに不安を感じている。
- ◆就職活動で、企業に病気のことを伝えるべきか迷っている。
- ◆仕事復帰に際して、どんなスキルが必要か知りたい。

こんな悩み・不安をハローワーク大阪東が解消します
ハローワーク大阪東は、お仕事を探されている方から在職中の方まで病状、治療状況などを考慮して、マンツーマンであなたの就職活動をサポート!

お仕事を続けていく上での不安解消の相談
症状、通院状況に配慮した求人の検索・紹介
仕事復帰の不安解消の相談
就業訓練や就職支援セミナーなどのご案内
応募書類の作成や面接の受け方のアドバイス
職業訓練や就職支援センターなどのご案内

就職!

ハローワーク大阪東の職員が
第3週 木曜日 13:00～16:00
がん相談支援センター
(大阪赤十字病院 本館2階)
にて皆さまの相談に応じます。
ぜひ、ご利用ください。

お問い合わせ
TEL:06-6774-5152(直通)
月～金曜 8:30～17:00

※相談日は変更になる場合があります。

大阪赤十字病院・ハローワーク大阪東・大阪労働局

『就職支援ナビゲーター』には、新たな仕事を探すことに対しての相談が可能です。現在の体調でどういった求人があるかなどの情報を知ることができ、在職中の方でも相談が可能です。

まずは医療ソーシャルワーカー(MSW)が話を伺います。そして、関係機関の方に現在の身体の状況を含めて内容を伝え、面談の予約をお取りします。些細なことでも構いません。仕事について気になることがあれば、お気軽にご相談ください。

がん相談支援センター

がん相談窓口

本館2階 総合サービスカウンター
直通電話 06-6774-5152
(月～金曜 8時30分～17時)



キャロリング

Caroling

～今年も「こころ」を込めて歌いました～

当院では、年末に大阪赤十字看護専門学校(大阪赤十字看護専門学校)の学生による『キャロリング』を行っています。明かりを灯したろうそくを手に、讃美歌を歌いながら病棟を回ります。昨年は大阪赤十字看護専門学校の学生108名が参加し、厳かな雰囲気の中、粛々と行われました。

キャロリングの歴史

キャロリングは歴史が古く、戦後間もない昭和27年、当院は法円坂(現在の難波離宮跡)にあり、看護婦寮も併設していた頃にさかのぼります。



讃美歌を歌う看護学生たち

看護婦たちが勤務を終えた後、寮でおしゃべりをしたり、歌を歌ったりすることくらいしか娯楽のなかった時代でした。歌の好きなひとりの若い看護婦が、友人らと近くのYWCA(Young Woman's Christian Association)に通っており、そこで楽しく歌を歌っていたそうです。その当時、大阪のいくつかの病院では、クリスマスになると看護婦によって讃美歌が歌われていたそうですが、当院でもクリスマスの時期に患者さんのために歌を歌えたらと、誰とはなしに言い始めました。それをきっかけに歌の好きな医師や看護婦、看護学生が集まって、歌を歌いながら病棟を回り始めたのが、当院の『キャロリング』の始まりです。

昭和31年、当院が現在の場所に戻った後も、この有志による『キャロリング』は、途切れることなく続けられています。当初のように医師や看護師の参加はなくなりましたが、現在は100名以上の看護学生によって行われています。患者さんへ美しい歌声を届けたいと、参加する学生たちは1カ月ほど前から授業や実習の後に音楽の先生の合唱指導のもと練習を重ねています。明かりを灯したろうそくを手に讃美歌を歌う学生の姿は、看護師の原点であるナイチンゲールを彷彿とさせ、きつと多くの患者さんに安らぎを感じてもらえるものとなっているのではないのでしょうか。

最後になりましたが、毎年、合唱指導をしてくださる音楽の先生、『キャロリング』の風景をきれいに撮影して下さるボランティアの方へ、この場を借りて御礼申し上げます。

News 「大阪府外国人患者受け入れ地域拠点医療機関」に選定されました

当院では「言葉が通じない」「文化が異なる」などの外国人患者さんが安心して医療が受けられるよう、病院全体で取り組んできました。その取り組みにより『大阪府外国人患者受け入れ地域拠点医療機関』として令和元年5月31日に選定されました。

Seminar 「第10回 糖尿病オープン教室」を開催しました



11月13日(水)、1階正面玄関ホールにおいて『第10回糖尿病オープン教室』を開催しました。今回は糖尿病・内分泌内科医師と糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、薬剤師、臨床検査技師、歯科

衛生士、管理栄養士からなる「TEAM DM」のスタッフが主体となって実施しました。

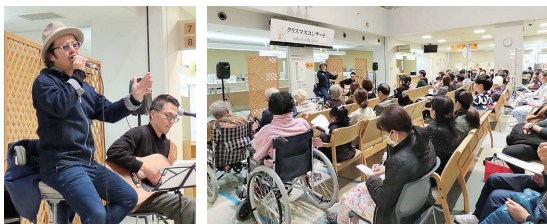
糖尿病・内分泌内科 武呂主任部長の開会の挨拶に続き、堂川管理栄養士が「運動するための体づくりを食事面から考える」、糖尿病・内分泌内科 金井医師が「糖尿病とサルコペニアについて」を講演し、「日本糖尿病協会」が企画・協賛している運動療法のすすめより「よろこびの歌体操」を患者さんと一緒に動画にならって行いました。82名の参加者の皆さまは熱心に講演に耳を傾け、多くの方が体操を最後までやりきることができ、楽しく実践できる方法を学ぶ機会となりました。最後は血圧測定のほか、医師、糖尿病療養指導士による健康生活相談コーナーを設けて希望者の相談に応じました。



糖尿病・内分泌内科・武呂部長

Event 「クリスマスコンサート」を開催しました

12月15日(日)、クリスマスコンサートを開催しました。今回はシンガーソングライターの強さんをお招きし、代表曲である「スーパースター」「カーテンコール」など数曲を歌っていただきました。アコースティックギターの演奏にのせて、強さんのやさしくも力強い歌声がホールに響き渡り、会場はあたたかい雰囲気になりました。患者さんからは「胸に深く響き涙が出た」「励まされた」「元気と力が湧いてきた」…との声をいただき、終演後にはサインを求める列ができるなど、笑顔があふれるコンサートとなりました。



●次回は「スプリングコンサート」を開催予定です。詳細が決まりましたら、ホームページおよび院内ポスターで案内しますので、ぜひご来場ください。

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>

Event 「院友会文化祭」を開催しました

11月19日(火)～22日(金)、当院東館地下1階にて『院友会文化祭』が開催されました。職員、OB・OG、大手前整肢学園より、絵画、手芸、写真など70点の作品をご出展いただき、多くの方が来場されました。



院長賞

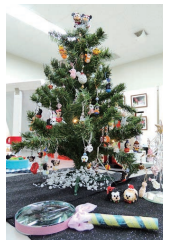
▶「知恵あそび」13階B病棟・中島 紀子看護師長職務代理 栄えある院長賞を受賞されたのは、13階B病棟・中島紀子看護師長職務代理の「知恵あそび」でした。出品者の皆さま、素敵な作品をありがとうございました。また、ご来場者いただいた皆さま、投票にご協力いただきありがとうございました。

文化部長賞 「ディズニーツリー」 看護部・小谷 奈穂看護師

特別賞 「だるまさん大集合」 整肢学園通所

入賞 「似顔絵 吉本新喜劇」 村上 綾子様

「アイシングクッキーの世界 ～全部たべられます～」 岩本 真理子様
「ピクニックは楽しいな!」 大手前整肢学園・生活支援課・永山 伸枝保育士



News 海外たすけあい募金にご協力ありがとうございました

当院では12月1日～25日まで院内各所へ募金箱を設置しました。皆さまから総額 42,492円もの心温まるご寄付をいただきました。募金にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。また、今後とも赤十字活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

海外たすけあいて?

海外の紛争、災害、病気などで苦しむ人々を支援することを目的に、昭和58年2月から始まった海外たすけあい募金は今年で37回目を迎えます。日赤の国際活動の多くが、このキャンペーンの寄付で実施されています。集められた寄付金は、例えば海外で地震、洪水、干ばつなどの災害が起きたときに、被災国の赤十字社からの要請に基づいて、国際赤十字の枠組みを通して現地の赤十字社に資金が送られます。現地では、国際赤十字の調整のもとに、食料や緊急救援物資などの購入や、地元で根差した現地赤十字職員やボランティアが物資の配布や救援活動を行います。また、日本から日赤の職員を派遣して活動していることもあります。

人事異動情報 (令和元年10月31日～令和2年1月31日)

- 採用** (12月 6日付) ●上月 友寛(リウマチ・膠原病内科部・非常勤嘱託医師)
(1月 1日付) ●米山 華蓮(産婦人科部・専攻医)
●岡村 佳奈(耳鼻咽喉科・頭頸部外科部・専攻医)
- 転任** (1月 1日付) ●山脇 聖子(形成外科部・副部長)
- 退職** (10月31日付) ●中津 太郎(心臓血管外科部・医長)
(11月30日付) ●納田 安啓(リウマチ・膠原病内科部・非常勤嘱託医師)
(12月31日付) ●岡本 仁(形成外科部・副部長)
●山崎 博司(耳鼻咽喉科・頭頸部外科部・医師)

病院のご案内

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
初診/月曜日～金曜日 8:30～11:30 再診/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください)
平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は
敷地内全面禁煙です
当院は、敷地内全面禁煙を
実施しています。
ご理解とご協力をお願いします。



大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 令和2年1月発行

■お問い合わせ

TEL:06-6774-5111 (代表)

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>
赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

